授業づくり研修講座　実践レポート

座間市立　西　中学校　　氏名　篠原　繁幸

単元名　　第　３　学年　　「　故郷　」

実践のポイント（工夫）

・　人物関係や過去・現在といった時間的場面設定を、表を用いて対比させた。

・　その後に、文章を書き起こすにあたって対比関係が明確になるように意識させることによって、文章のまとめることが難しい生徒でも論理性をもつ文章が書けるようなフォーマットを示した。

・　字数に制限はかけなかったが、B5プリントで５～７行以内といった比較的短めの設定にした。それによって、箇条書きを接続詞でつなげたような文章でまとめることができ、書くことが苦手な生徒でも抵抗感の軽減を図ることができた。

実践内容

|  |
| --- |
| 〈　授業内容について　〉  魯迅によって書かれた日本が大正時代の小説である。主題は深いが、手掛かりとなるディテールは心情描写の記載や会話文などを通して、非常に明瞭に書かれており、「自ら論理的に考え、論理を組み立てる」学習を行うには非常に適した教材であると感じた。  今回は、人物関係や過去・現在といった時間的場面設定を、表を用いて対比させ、この小説の展開・結末において暗示しているものをわかりやすく書くことを目標として、授業を行った。  〈　生徒について　〉  もともとは自分の意見を明らかにすることに対して消極的な生徒たちであった。しかし、「ブレインストーミング」や「表を用いた内容整理」の学習を通して、自分の考えをまとめ自覚することに慣れてきた。ただし、自分の考えにふさわしい言葉や表現を見つけることがまだまだ課題であり、字数指定でも自由記述でもなかなか書くことができない生徒もいる。 |

振り返り（成果や課題）

（　成果　）

・　接続詞を用いた書き方のヒントを載せた結果、その接続詞から以降の文章内容が自然と導き出され、事実・理由づけが明瞭になった。そこから、文章構成も内容もまとまるようになった。

・　主語・述語・接続語といった文の成分や付属語の適切な使用を深く学習することで、自分のイメージを言語表出するための強力なツールとなりうるのではないかと感じた。

（　課題　）

・　一部の書くことが得意な生徒にとっては、逆に書き方のヒントを使ってしまうとまとめづらいという声もあった。

→　「書くことが得意であること」と「論理的に書きまとめる」ことは違うことがわかった。

○「情緒的に豊かに表現する」ことと「誰もがわかりやすいように簡潔に表現する」ことは違うことを先立って明確に指導し、目指す文章の完成イメージを生徒たちにはっきりと持たせておく。